

テレビ朝日アナウンサー

宮嶋泰子さん


 みやじまやすこ
 ●宮嶋泰子さん

1955年1月9日、富山県生まれ。77年、早稲田大学第一文学部を卒業後、テレビ朝日にアナウンサーとして入社。女性スポーツキャスターの草分け的存在。モスクワ、ロサンゼルス、カルガリー、ソウル、アルベールビル各五輪を取材。現在は「ニュースステーション」でスポーツ特集ディレクター兼レポーターとして活躍中。スポーツ歴としては、中学・高校と軟式テニス、大学ではワングル。「いまはときどき水泳をする程度」。

スポーツマスコミ界で活躍している女性はまだまだそう多くありません。その数少ないお一人、テレビ朝日の宮嶋泰子さんは、アナウンサーの枠を越え、ディレクターとしても腕を振るっています。スポーツ・ドキュメントで定評のある宮嶋さんにお話を伺いました。

橋本聖子はスポーツ・リーダー

「宮嶋さんはいろいろな選手を取材なさっていますが、特に「ニュースステーション」でのスケートの橋本選手の取材は長いですね。聖子さんのどこがそうさせるのでしょうか。」

「聖子さんは、今までの日本の女子選手とスポーツに対する考え方が違うんです。それがおもしろくて取材をするの。彼女にとって、スポーツは自分の可能性を追求する手段なんです。結果は問題ではなく、その過程の、限界への挑戦に喜びを感じているんです」

「ソウル五輪に続いて自転車に挑戦したのも、それだったんですね。」

「そうです。でも、あいつは五輪病か、とかいわれたり、批判の記事が出るでしょう。私は、十人いればみな感じ方が違ってしまうんです。だ

から新聞記事も、一人の記者の思い込みを読まされているに過ぎない、と割り切ったほうがいいと思っています」

「宮嶋さんは、聖子さんが自転車をやると聞いて、どう思われましたか。」

「そうか、それもわかるなという感じでしたね。みんな彼女に賛同しろとはいわないけれど、スポーツをもっと大きい視野でとらえて、どうしてするのか、土壌から考える記者がいてもいいのに、という気はします」

「聖子さんは特別ですが、日本の女子選手は引退年齢が早くありませんか。」

「ええ。統計を見ても、他の国と比べて、全ての競技の平均年齢が低いんです。それは引退年齢が早いからそうなるんです。二十五歳でお嫁に、という型にはまった女性観がスポーツ選手にも適用されてしまうわけです。」

「もう一つの原因は、コーチと選手の関係です。日本のコーチングシステムは、コーチが『頭の部分』を作り、選手は『体の部分』をやる上下関係でしょう。二十四、五にもなると、それがいやになって辞めてしまう。日本の女性でコーチと対等な関係ができているのは、聖子さんぐらいです。まさにスポー

スポーツキャスターといえは、いまや女性の花形職業です。十年程前は男性ばかりだったこの世界で、女性の先駆者となったのがこの人でした。

ツ・リーダーといえますよね

スポーツ界と社会の流れ

「競技スポーツで、男女の差はどこにあると思われませんか。」

「スポーツは心を支えられている部分が多いから、精神的に粘り強い女性のほうが、意志さえあればきちんと続けていけるかもしれません。反対に、男性は企業システムに組み込まれているから、三十五歳を過ぎてスポーツばかりやっているわけにはいかないという社会的なハンディがあるでしょう。男だから、女だからというのではなく、ものは考えようだと思いますね」

「とはいっても、日本の女性スポーツ界は遅れていますか。」

「社会が遅れているからでしょうね。たとえば、十年前はみんな男性だったスポーツキャスターが、今は四分の三が女性です。でも実際に裏で番組を作っているのは、男ばかりです。女だから登用された、ではなく、一番よく知っているから起用されたのがたまたま女性だった、という時代が来れば本物だろうと思います。私は女で得したところがすごくありますが、これからは

実力勝負の時代が来るでしょうね」

——スポーツ担当になったきっかけは。

「モスクワ五輪の中継権をテレビ朝日が独占して、民放で初めてのオリンピック中継だから新人の女性を育てようとなった、体力のあった私になったということですよ。(笑) 本当は外報の仕事がしたかったので、泣きましたよ。モスクワの後は夜のスポーツニュースを担当し、プロ野球をやりました。それまで女性はやっていなかったものだから、選手の名前を呼び捨てにすると、生意気だとお叱りが来ました。今じゃ考えられないでしょう」

——スポーツマスコミ界で女性の道を切り開くぞ、と意識なさったことは。

「ありません。それに私は、スポーツをやっているというつもりはないんです。私は人間に興味があって、スポーツは人間の性がモロに出るでしょう。ある部分、修羅場で、自分や人との闘いだし、そこに出てくる人間性がおもしろいから、やっているだけです。そのときに、いつも選手の側に立ってものを見て、選手と一緒に考えていきたいなという気持ちはあります」

バルセロナへ向けて

——バルセロナ五輪では、日本選手に何を期待していますか。

「おもしろいのは女子マラソンです。ロサ・モタが『世界の動向はあんまり変わっていないけど、いちばん変わっ

たのは日本の女子の層の厚さよね』というくらい。八位入賞の可能性を三人とも秘めています。ただ私は、マスコミが騒ぐように、上位入賞とかぜひメダルを、と思って見ることはあまりありません。懸命に練習している姿を見ているので、その人が四年間この日のためにやってきたことを全部出せばいいと願うだけです」

——ところで、ご家庭とお仕事の両立は大変でしょうね。

「しょうがない、私のほうが亭主より元氣だから、家事をやるかって、それだけ。夜がどんなに遅くても、朝は七時に起きて御飯を作ります。四品ぐらいあって豪勢ですよ。反対にいえは、朝しか一緒に食べられませんからね」

——ご主人の理解も必要ですよ。

「かわいそうですが、そういう道を選んだんですからね。(笑) 今年には既に一カ月半いなくて、バルセロナでまた一カ月いなくなる。普通、そんなのに耐えられる男の人、いませんよね」

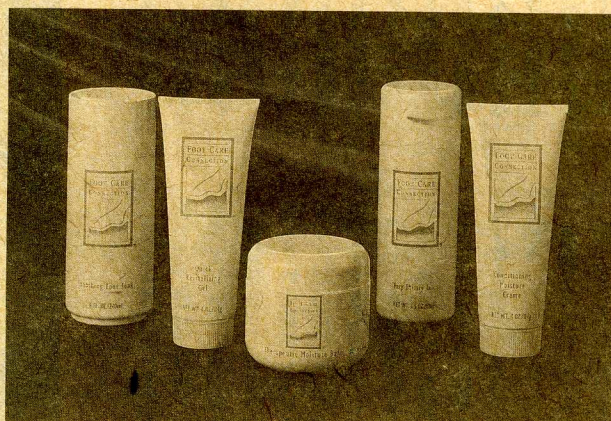


バルセロナ五輪が目前に迫り、取材で超多忙の中、時間を割いていただきました。気取っても肩肘張ったところも全くなく、バランス感覚のいい方だなという感じがしました。周りの人に恵まれたからこそまでやってこられた、という言葉が印象的でした。

(五月) 二十七日取材・聞き手 山本尚子

いま話題の本格的フットケア化粧品

フットケアコネクション



現代人の足は、疲れやストレスの他、さまざまな病的なヒズミが溜まっています。足は体重の全てを支え、常に歩行のメカニズムを支えているのです。足をいたわり、優しくお手入れすることが、いま求められています。この評判の「フットケアコネクション」は、世界的な足病学の権威、アメリカのチャールズ・デピラ博士が研究開発した全く新しい独自の化粧品です。

《フットケアコネクションシリーズ》

- ITスーージングソーク ￥4,600(240ml)
- ITリバイタルジェル ￥4,600(114g)
- ITモイスチャーバーム ￥4,800(114g)
- ITサースティパウダー ￥4,600(100g)
- ITモイスチャークリーム ￥4,600(114g)

※表記の価格には消費税は含まれておりません。

滝川株式会社

■本社/〒111 東京都台東区元浅草3-2-1 ☎03(3845)2111(大代表)

お問い合わせは■滝川(株)エステティック事業部/〒113 東京都文京区本郷2-40-17本郷若井ビル2F ☎03(5689)7800 までお気軽にどうぞ。